

協同的問題解決としての参加型授業研究会 ワークショップの方法と手順

教育実践問題支援プロジェクトでは、研究授業の公開と事後検討会を柱とする授業研究会を、協同的な問題解決の場と位置づけています。児童・生徒がどのように学んでいるかを参加者が観察・記録し、その事実をもとに討議することを通して、教育実践上の問題の発見・共有・解決を図っていきます。学校で行われてきた授業研究会に、大学で共同研究として行われている授業分析を取り入れた、ワークショップです。

事前準備

- 研究授業における問題意識の明確化
 - 児童・生徒への願い
 - 授業者として実現したいこと
 - 手だてや働きかけ
- 単元の構想、授業案、座席表の作成
- 抽出児童・生徒（3名程度）の決定
- 司会、観察者の役割分担の決定
- 授業準備（教材、学習環境等）
- 事前ミーティング

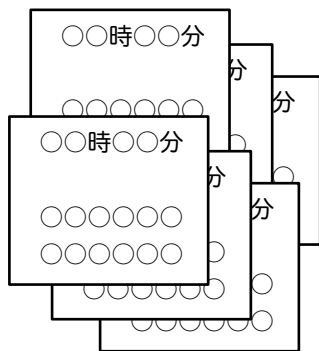
研究授業

- 授業の観察・記録の分担
 - 速記録者（2名）
 - … 時刻、発言者、発言・行動の概略を時系列にそって記述
 - 抽出児童・生徒観察者（児童・生徒1名につき1～2名）
 - … 抽出児童・生徒の様子を、時刻とともに記述
 - 全体観察者
 - … 授業者のねらい・意図、抽出児童・生徒を考慮しながら、「おやっ？」と気持ちが動いたところを、時刻とともに記述
 - 音声記録、映像記録、写真

事後検討会

時刻	発言者	発言の概要
〇〇〇	〇〇	〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇
〇〇〇	〇〇	〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

速記録



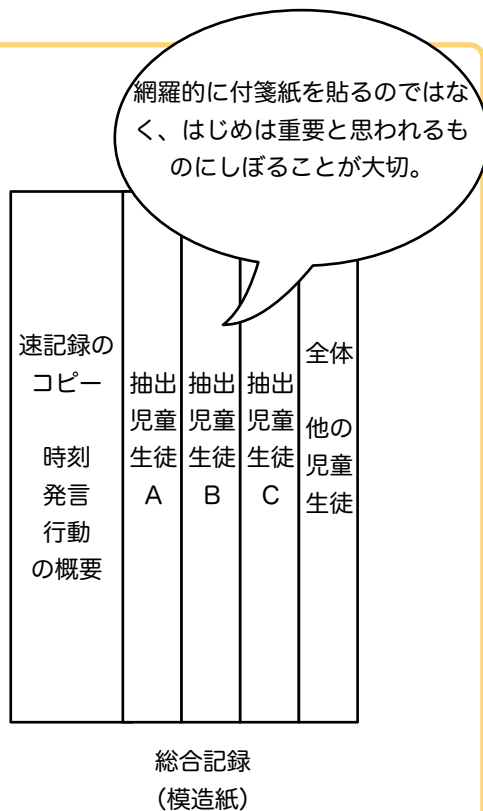
付箋紙

観察者は、観察した抽出児童・生徒の様子などを、時刻とともに付箋紙に記述します。観察中に直接記入しても、観察後に記録を整理しながら記入しても、どちらでもかまいません。

事後検討会では、速記録に、各参加者の気づきを、付箋紙で付け加えていくことによって、総合記録を作り上げていきます。この作業を通じて、参加者どうしで、観察・記録した事実や気づきを共有していきます。

協同での総合記録づくり

速記録を模造紙大に拡大します。抽出児童・生徒ごとに、付箋紙を貼る欄を、あらかじめもうけておきます。その他の児童・生徒や全体の様子についての付箋紙を貼る欄も、もうけておきます。



模造紙は、黒板・壁などに、参加者によく見えるように貼ります。書き込み、付箋紙の貼付けができるように、スペースをとっておきます。通常、1授業で、数枚から10枚の模造紙になります。

ワークショップの例

Step 1

研究授業の観察と記録

速記録、抽出児童・生徒、その他、全体
教師の願い・意図にもとづいて観察

研究授業

Step 2

付箋紙へ記入

時刻とともに、気づきを記入
(観察中あるいは観察後に)

「おやっ？」と
感じたところを
大切に

Step 3

研究授業直後に速記録の整理

模造紙大に拡大コピーするか、
模造紙に拡大コピーを貼りつける
総合記録の台紙になる

Step 4

速記録をもとに授業の流れを確認

大まかに分節にわけて
小見出しをつける

授業の展開を構造的に
理解する

Step 5

抽出児童・生徒の報告

総合記録に、付箋紙を貼りながら、
抽出児童・生徒の学習の様子を報告

Step 6

抽出児童・生徒ごとに焦点化した話し合い

抽出児童・生徒ごとにグループにわかれ、
さらに観察した事実を交換しながら、
子どもの学習の実態に深くせまっていく
今後の発達の可能性、
指導のあり方を模索する

観察した事実を
ベースとして
話し合う

Step 7

まとめ

話し合いの成果の報告・授業者からのコメント・成果の確認

Q&A

Q. 児童・生徒の観察にもとづく話し合いは行われるのですが、単元構想や授業者の発問がよかったのかどうか等は、話し合えないのでしょうか？

A. もちろん、単元構想や授業者のあり方も事後検討会で検討すべきことですが、直接にそれを問題にするのではなく、あくまでも観察した子どもの様子にもとづいて行うことが大切です。

Q. 事後検討会で授業者に質問する機会が少ないのですが、それでよいのでしょうか？

A. 参加者は、あらかじめ授業者の願い・意図を十分に理解しておく必要があります。事後検討会では、冒頭と最後に話してもらい、必要に応じて最低限の質疑を入れるのがよいでしょう。協議が尋問と釈明に終始しないよう、授業者の意図を共感的にとらえた上で、それぞれが気づいたことを発言することが大切です。

